

カリキュラム

機構施設名： 和歌山職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社テクノ経営総合研究所

(A)生産管理	ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
生産・開発計画	

コースのねらい	製造業の業務の流れと各部門の役割について学び、製造業全体の基本的なしくみを理解するとともに、製造現場での仕事に対する考え方、自身の立場や責任を理解し、業務改善の考え方を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1 ものづくりの仕事の流れ	(1) 企業の使命とは ～「ものづくり」を進める上での基本的な知識と考え方～ 「企業の使命は何か」「日本の製造業を取り巻く環境や課題」について学び、リーダーとして知っておくべき基本的な知識や考え方を理解する。	2.0
		(2) ものづくり企業の仕事の流れ ～仕事の流れと「生産性」～ 基本的な製造業の上流から下流までの仕事について知るとともに、「ものづくり力」を示す指標である「生産性」を理解することで、ものづくり企業の仕事の流れの理解を深める。	
		(3) 仕事を円滑に行なうための組織とは【演習あり】 ～「チーム力」～ 日々の生産活動を円滑に行なうための組織に必要な要件を学ぶ。特にここでは生産性向上に対してポイントとなる「チーム力」強化について演習を通じてスキルやノウハウを身につける。	
	2 ものづくり現場の現状と課題	(1) 製造業の現状と課題 ～「価値作業」とは、「ムダ作業」とは～ 製造業の現状と課題から「価値作業」と「ムダ作業」を学び、現場で問題やムダを発見する「気づき」の重要性を理解する。	2.0
		(2) 工程管理と管理監督者【演習あり】 ～管理監督者の視点～ ものづくり現場における工程管理の重要性や具体的な取組みについて学び、その中で管理監督者が果たすべき役割について理解を深める	
		(3) 問題を発見する力【演習あり】 ～実作業での課題を見つける～ 「何が問題なのか」「ムダ作業は何か」「どうすればよいのか」を見つけ出し、実践への方策(切り口やノウハウ)を身につける。	
	3 ものづくりに関する業務改善	(1) 業務改善の基本である5S活動とは【演習あり】 ～「5S」の真の目的は～ ムダに気づき、ムダを解消することで生産性が大きく向上する。その効果を「5S活動」を題材にして実感することで、改善実践へのモチベーションを高める。	2.0
		(2) 現場の課題解消 ～コミュニケーション～ 現場では「コミュニケーション」を苦手としていることが多い。「現場力」を大きく押し上げる「コミュニケーション」の真髄を考える。	
		(3) 現場の経営を考える ～「付加価値を高める」とは～ 経営視点でものごとを考えることはリーダーにとっての必須事項。原価・工数削減・品質向上の意味を理解し、リーダーが身につけておくべき経営の基本を理解することで経営に貢献できるリーダーになる。	
(4) 本日のまとめ ～全員参加で成功体験を～ 自主的で活発な改善活動を行なう職場にするためのキーワードは、全員参加と成功体験。各職場が自律的な職場となる重要性を理解する。			
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
基本的な知識をもとに、これからの仕事の中でどう活かしていくかについて理解を深めいただき、教科書的な講義ではなく双方向の講義を通じて、考えさせながらものづくり企業(製造業)に関する基本を習得し、リーダーとしての意識を高めることを目標に進めます。様々な業種の顧客との改善活動を通じて得られたコンサルタントとしての知識や経験を、具体的な事例を用いて分かりやすくお伝えし、演習を多用することで学びの定着を進めていきます。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他)
・電卓をご持参ください(電卓機能付きの携帯電話、スマートフォン等でも可)	・プロジェクタ、スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー(黒・赤) ・PC(講師が持参) ・OS: Windows10 ・アプリケーション: Microsoft Office2016 Power Point
●使用するテキスト	●その他
・自作テキスト	・なし

利用事業主に用意をを求める機器等	備考
・プロジェクタ、スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー(黒・赤)	使用設備: プロジェクター(HDMI端子およびUSB-Type A端子対応)、スクリーン、ホワイトボード